



SUPPORTERS CLUB NEWS
友の会 会報
TAKAYAMA-UICHI MEMORIAL MUSEUM OF ART

〒039-2501
青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94
七戸町立鷹山宇一記念美術館内
鷹山宇一記念美術館友の会
TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860

平成13年度 鷹山宇一記念美術館友の会
事業計画案を検討

鷹山宇一記念美術館友の会では、役員会を開催して新年度の事業計画を検討してまいりました。

平成13年度においても美術館の企画展に対する協力をはじめ、以下のような活動が計画されています。

正式な事業内容は友の会の通常総会において審議されますが、新年度も会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

通常総会

後日、書面にてご案内いたしますが6月上旬に開催を予定しております。

また例年どおり総会后に、美術講演会の開催を計画しています。(講師は鷹山ひばり館長の予定です)多くの会員の皆様のご出席をお願いいたします。

ボランティア活動

平成13年度に美術館で予定されている企画展については本紙News&Reportのページに特集しておりますのでご参照ください。友の会では設立以来毎

年、会員の監視ボランティア活動を通じて企画展の運営に協力しております。

来館者に対する案内と展示作品の保護を中心とした仕事で、協力可能なご都合のよい日時で、スタッフ募集をします。本年度もよろしくお願いいたします。

研修旅行

毎年、青森県内外の美術館・博物館を対象に数回の研修旅行を計画し、多くの方のご参加をいただいております。

本年度は、秋に開館予定の岩手県立美術館の開館記念展を訪れる予定です。そのほかにも機会があれば、状況に応じて計画をしてお知らせしていきたいと考えております。

会報の発行

年4回の会報の発行を予定しております。お気軽に原稿等をお寄せ下さい。

絵画購入基金の積立

本年度も例年どおり基金の積立を予定しております。

映像資料等の購入

昨年の手塚治虫展では、友の会で購入したアニメーションを会場内で上映して、来館者より好評をいただきました。

本年も藤子・F・不二雄展が予定されていますが、「ドラえもん」をはじめとする映像資料の上映を、友の会の事業として行い企画展の運営に協力する予定です。

海外研修旅行の検討

平成11年度、初めての海外研修旅行を実施しましたが、やはり十分な計画が必要であると痛感しました。そこで今から実行委員により検討を始めていと考えております。平成15年のはじめを目途に、イタリア方面を中心に原案をたててみる予定です。

なお、それぞれの事業内容の詳細につきましては美術館(0176-621585)まで、お気軽にお問い合わせ下さい。

友の会更新手続き及びご入会のお薦めについて

会費規程(規約第五条)

平成13年度の更新手続き及びご入会のお知らせにつきましては、先の21号でもご案内させて頂いたいただきました。ご更新いただいた皆様、また、新規ご加入いただきました皆様、誠にありがとうございます。

★一般会員★年額3千円

【特典】

- ①ご招待券3枚贈呈、ご本人に限り入館料を割引
- ②ミュージアムグッズ割引(一部対象外あり)
- ③研修旅行・講演会・会報等のお知らせ

★個人特別会員★年額1万円

【特典】

- ①会員証提示によりご本人と同伴者1名迄入館料無料
- ②新規会員には美術館発行の画集を1冊贈呈
- ③一般会員②③の特典

★法人特別会員★年額2万円

【特典】

- ①会員証提示により代表者と同伴者3名迄入館料無料
- ②一般会員②③、個人特別会員②の特典

ご希望申し上げます。なお、会員の種別と会費並びに特典については、これまでと同様です。

※今年度から新たな特典として新規及び更新の皆様は「鷹山宇一デッサンシート」をプレゼントいたします。

平成13年度も様々な特別企画展を予定している鷹山宇一記念美術館入館には、ご入会の際一般会員の方に差し上げることが出来る特別料金を設定する企画展でもそのままだご利用になれ、又、特別会員の方は年間を通じていつでも無料で入館ができます。

■テーマ■
『私が会ったアーティストたち』

～後編～

■講師■

株式会社 東奥日報社
代表取締役社長
佐々木 高雄 氏

前号からご紹介して参りました、昨年6月3日(土)開催の美術講演会でのお話。いよいよ今回で最終回となります。貴重なお話を賜りましたこと、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

アフリカ美術との出会い

私自身、自分の周りに抽象画を置いていますが、その中の1人で八戸高校出で豊島弘尚とよしまひろなおという方がおりました。彼と銀座の小さな画廊で知り合っただけで、画遊んだのですけれど、画家なのか、愚連隊なのか、ヤクザなのか分からず、連中が集まってくる。飲んでるうちに酔っ払って喧嘩を始めて、乾いていないキャンバスに転がされて、まだ月賦の残っている背広を台無しにしたことがあります。その連中と付き合っているうちに、現代美術とは何かが分かってくる。一方で、工藤甲人こうとうこうじんや鷹山宇一たかやまいつしとか地べたに足をつけてやっけて行く画家を知り、両極を見る機会が、アフリカ美術といった他の分野の未知の美の世界へと、そして、

人間が手で作ったすべてのものに繋がって行く。民芸作家なんて聞くと、

昨日まで漬物のどんぶり鉢だったのが急に展覧会の個展会場で抹茶茶碗と同じような値段になってしまふのだから。この問いかけに答える人がいない。それでだんだん無名の物に惹かれて行く。私はまだヨーロッパに行った事がない。東洋が中心。アジアとアフリカとシルクロードと中国とベトナムとカンボジア、韓国に行つて来ました。北京から6千キロ離れたシルクロードで肩からかける袋を見たり、ずいぶん南の少数民族の作品に、菱刺しひししそっくりの物があったり、「一体これは何なんだろう」と、これが布に対する最初の興味でした。

シルクロードに行つた時、流水紋かみづの緋を見つたり、世界新聞大会でワシントンに行つた時、会場を抜け出して見つけた布がなんとアフリカの藍染めだったり。藍染めがどうして日本の独特の文化だと言えますか？ 緋が日本独特の文化だと言えませんか？ どうして言えますか？ それのアフリカ文化にのめり込んだきつかけでした。最初は布でした。

ボランテアとは？

その時行つたスミソニア協会の博物館はほとんどタダです。公園の中で地下3階。まさか地べたの下に博物館があるとは思つてもみませんでした。ほかにサックラー美術館があつてそれも地下3階で、全部地下で繋がっている。そのミュージアムショップに行つたら黒人のおばさん達が何かいて全部ボランテア。自分が使える時間を登録して運営している。ボランテアが終わつてもまだ時間があるから、もつと面白い美術館があるからと、案内してやる。うまく出来ているなあと思ひました。そういう事が日常茶飯事に行われて

いる。日本は道德の国で、サーピスの国で、ボランテアの国で、美德の国だと言いますが、アメリカの方がずっといい。

何年前か、八戸支社に3年間単身赴任勤務して2ヶ月に1度帰宅して来ました。この間女房が八戸に来たのは2回しかありませんでした。その2回目に来た時、八戸のスタックにふたりで出掛けて「オイ、おまえに相談があるんだけれど、リタイヤした後やりたい事がある。賛成してくれないか？もし賛成しなくても勝手にやるからな！」それは、どつかの村の端っこに土地を借りたい。そこに小屋を建てる。わざわざ小舎を建てる。わづかばかりの本と絵のコレクションを置いて、朝から暗くなるまでその小屋を解放する。自分の好きなデザインデザインの椅子を何脚か置いて、誰でも来て、例えば隣のばあさんが来て嫁の悪口を何時間でも言うのを黙って聞いてやるのもボランテア。ボランテアという事を誤解しているふしがある。皆それぞれ事情を抱えている。それを誰かに話したい健康者の為のボランテア。壁から一枚の絵

が無くなっている。どうしても欲しくて持つて行く、それもイイじゃないか！そうして暮して最後に自分の葬式代を残して最後は全部チャラにする。そんな生き方をしたい。

と。それで、自分達に死んだ後、借りた地主にその小屋をそのまま残せばいい。息子は今住んでいるハノイからまた別の国に行くだろうし、あいつはあいつで自分で色々木家を作つて行けばいい。僕は仏教徒ですが「再生する」観念がありません。機会があればこのようにタダで出来るボランテアの話をして歩いていきます。明日からでも出来る。人を当てにしない。一人でやる。人の懐を当てにしない。役所からの補助金を当てにしない。会社などの組織を作らないで一人でやる。明日からやれる。出す物はせいぜい番茶ぐらい。腹へつたら自分でオニギリぐらい持つて来いと言えればいい。個々の個性を持った人々が触れ合つて、自分がボランテアをしてもらう。タダで明日からやる。やってみませんか？ここに来た時、鷹山さんの絵がまた違った目で見る事が出来る。自分の喜びを分かち合いたい。皆さんは、少なくともひとりの人に「この美術館にはこんな素敵な絵がある。」と話しているはずですよ。

県職員で石田一成というボランテアを専門にやっている男がいますが「大きなことを考へてはダメだ、福祉というのは太平洋をバケツで埋めるような事だ。無駄だと思つたら最初からやらなければいい。福祉も文化活動も全部無駄だと分かつていてやらなければやつていられない。自分の手の平の範囲でやつていて知らないうちに広まってる。それが運動という物だ。」

「一粒の麦死なずば」という言葉がありますが、一枚の絵がその時の状況で違って見える。絵は見るだけではない、会話なんですよ！私のところに滝口修造という美術評論家が描いた絵がある。手のひらに墨をつけて描いた抽象画ですが、見方によつては人の顔に見える。上司とぶつかったり、部下と衝突した時は、その絵が鬼の顔に見える。また、絵が鬼の顔に見える。また、気持ちは豊かな時は、笑っている顔に見える。そんな経験がありませんか？

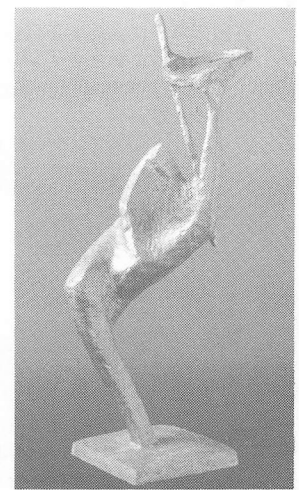
2001年鷹山宇一記念美術館

特別企画展

特別企画展会期中は無休です

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤

春季二科展／二科会青森支部展
 4月28日(土)～6月3日(日)
 第61回国際写真サロン
 6月6日(水)～6月17日(日)
 藤子・F・不二雄の世界展(仮称)
 7月20日(金・祝)～9月2日(日)
 薬師寺玄奘三蔵院「大唐西域壁画」完成記念
 平山郁夫～大下図・スケッチ帖・素描画・資料展～
 9月29日(土)～10月28日(日)
 第1回地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展
 11月23日(金・祝)～12月16日(日)



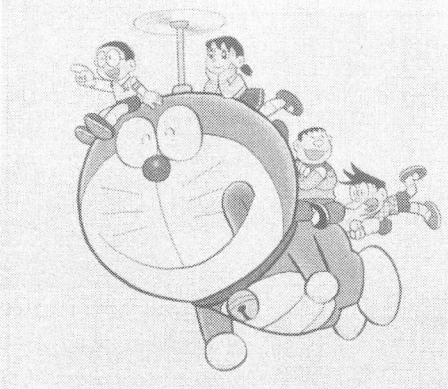
▲展覧会員 藤子・F・不二雄の「満月」
 二科会 理事 日高正法

① 春季二科展／二科会青森支部展
 当館に春の訪れを告げる恒例の企画としてご好評をいただいでいる春季二科展は、二科会絵画部・彫刻部会員による新作が出品される展覧会です。「造形上の実験的創造」の場として、本展は熟練作家たちが作品表現の可能性に挑んで制作した、意欲的な作品の数々に接することができる展覧会と言えます。また同時に、青森県在住で、秋の本展・二科展へ出品している、二科会青森支部所属の同人たちによる絵画展を併せて開催します。

② 第61回国際写真サロン
 国内外、プロ・アマ問わず広く作品を公募国内では最も権威ある写真コンテストとして知られる国際写真サロン。本展は、数多の応募作品から選ばれた審査委員特別賞6点を含む栄えある入選作品全130点をご紹介します。自然、人物、演出写真など、世界各国の写真家たちによる「写真表現の可能性」に挑戦した多彩な作品の数々をご紹介します。また、会期最終日6/17(日)には、写真教室(講義)とモデル撮影会を開催します。

■「春季二科展」「第61回国際写真サロン」入館料
 一般500円(400円)、高校大学生300円(240円)、小・中学生100円(80円)
 ※(内は20名以上の団体、前売券)

③ 藤子・F・不二雄の世界展(仮称)



マンガの神様・手塚治虫に憧れ、強く影響されて、ゴールデンタッグと称された幼なじみの藤子不二雄A(本名・安孫子素雄)と共に、二人で一人の異色のマンガ家・藤子不二雄として活躍し、その後、安孫子氏との合作活動を終え、平成8年惜しまれつつこの世を去るまで、マンガという夢を追い続けた藤子・F・不二雄(本名・藤本弘)。

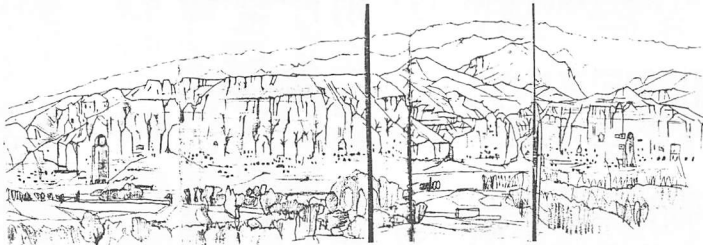
♪ そらを自由に飛びたいなあ...
 ハイ！ タケコバター！！
 ▶ カラーでお見せできなくてゴメンなさい

「オバケのQ太郎」《パーマン》などなど、彼が描くS(少し)F(不思議な)作品たちは、いつの時代の子供たちにも、そして、かつて子供だった大人たちにも愛され続けてきました。本展では、原画や著作本、愛用品などの資料により、藤子・F・不二雄の歩みをご紹介します。マンガに託して彼が伝えたかったメッセージとは何か？にあらためて迫ります。

④ 薬師寺玄奘三蔵院 大唐西域壁画完成記念 平山郁夫
 大下図・スケッチ帖・素描画・資料展
 20年に渡る実制作期間を経て、平成12年12月31日、奈良・薬師寺玄奘三蔵院で、「大唐西域壁画」の入魂式が行われ、平山郁夫画伯自らの手により最後の筆が入られました。7場面13面からなるこの壁画は、唐の都・長安からインド・ナーランダまで、玄奘三蔵の旅の跡を辿ったものです。かつて、原爆の後遺症に苦しむ中で、平山画伯は中国の高僧玄奘三蔵がインドから経典をもたらした状況を《仏教伝来》によって幻想的に描き出し、画業の転機となった本作品は、画家の代表作となりました。壁画は、これ以来平和の祈りとしての作品を描き続けてきた平山画伯の、玄奘三蔵への崇敬と感謝の念の集大成と言えるものです。

◎ 藤子プロ
 そんなマンガ家のライフワークともいえるべき代表作《ドラえもん》を中心として、当館から世界中の「のび太」に送る夏休みのひと時を、ご家族でどうぞお楽しみ下さい。

▼昭和43(1968)年7月28日、初めて訪れたパ・ミアン石窟をスケッチしたもの。
玄奘三蔵の足跡を辿る旅は、このパ・ミアンからスタートした(展覧会図録より)



おした子供の国際交流展ともいべき展覧会です。その柔軟で豊かな感性の下描かれた作品から、子供たちは何を考え、何を夢見、何を望んでいるのか?その真剣な問いかけと希望に、私たち大人が気付かされることは、多々あることでしよう。

本展は、壁画制作のために描かれた小下図・大下図はもちろんのこと、昭和43(1968)年、初めてアフガニスタンのパ・ミアンを訪ねて、玄奘三蔵の歩いた苦難の道を追体験したいと発願してから、ゆうに150回を超える取材旅行により描かれたスケッチブック150余冊(約4千点に及ぶスケッチ)から厳選し、平山芸術の背後にある弛みない努力と精進の軌跡をご紹介しますというものです。

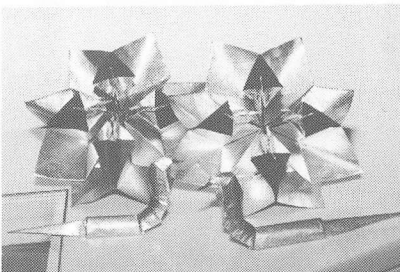
⑤第1回地球環境 世界児童画コンテスト 優秀作品展

本コンテストは、(財)日本品質保証機構(JQA)が、ISO認証登録業務開始10周年を記念して、世界各国の子供たちに「地球を救う君たちへ」と呼びかけ、「身近な生活や遊びを通じて地球環境について考えてもらいたい」という願いから企画されたものです。第1回目となる今回、「自然と遊び」



高田雨草氏によるお正月飾り
古代米と新米をアレンジ

▼盛田駿造氏によるお正月飾りは新年の干支・へびを折り紙で



▼1/28(日)当館役員研修会で訪れた萬鉄五郎記念美術館にて。冬期間の美術館運営など、お話を伺いました



▼ランブ館は、およそ一年ごとに入れ替えします。下は、只今展示中の「四脚金属支柱上ランブ」。四脚の支柱とシンプルなデザインに注目です。



■「春季二科展」(会場:銀座松屋)オープニングレセプションに当財団戸館理事、大池学芸員出席
■中部上北監査委員・事務局様美術館見学(28日)

←美術館のお正月を飾っていただきました

美術館日誌

【12月】

- 第60回国際写真サロン最終日、会期中の入館者987名(3日)
- 展示替え作業のため臨時休館。特別展示として「鷹山宇一のアトリエ」を再現(5日~8日)
- 若手県立博物館開館20周年記念特別企画展「北の馬文化」に出品の見町観音堂・小田子不動堂資料返却/三沢市立淋代小学校PTAスクールで鷹山館長講演(7日)
- (財)鷹山宇一記念美術振興会平成12年第4回理事會開催/青森県史編纂室中世部会による見町観音堂棟札・順札調査(9日)



▲「鷹山宇一のアトリエ」は4/22迄特別展示
▼七戸郵便局を会場に岡村氏の写真展



- 「七彩色」油絵教室開催(10日)
- 火曜サロン開催(12日)
- 年末年始休館(30日~1月2日)
- 1月
- 美術館御用始め(3日)
- 「七彩色」油絵教室開催(14日)
- 岡村光男氏「鷹山宇一記念美術館に來館された先生方の「顔」写真展」七戸郵便局において開催(15日~2月28日)
- 平成12年度第4回友の会役員會開催(20日)
- 北五小中学校長研修会で鷹山館長講演(24日)
- 岩手県東和町・萬鉄五郎記念美術館において美術館役員研修會開催/「七彩色」油絵教室開催(28日)

【2月】

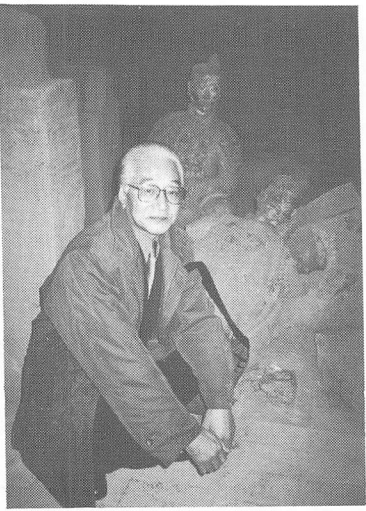
- 館内整理のため臨時休館/ランブ館展示替え(1日~9日)
- 節分の豆まきを実施(3日)
- 五戸町立上市川小学校で鷹山館長講演(4日)
- 「春季二科展」(会場:銀座松屋)オープニングレセプションに当財団戸館理事、大池学芸員出席
- 「平山郁夫展」(会場:日本橋三越)オープニングレセプションに当財団戸館理事、大池学芸員出席(27日)
- 「第60回国際写真サロン」開催に伴い行われた全日写真青森県本部主催モデル撮影會入賞作品表彰式(鷹山館長出席)(25日)
- 東青社会教育委員研修會で鷹山館長講演(9日)
- 三沢市連合PTA総会で鷹山館長講演(10日)
- 郵便局・青森県東部連絡会上北南部会様美術館見学及び部会會議開催(14日)
- 「七彩色」油絵教室開催(18日)
- 県立七戸高等学校総合学科履修科目「産業社会と人間」学習活動意見発表會に鷹山館長出席(21日)
- 八戸市美術館特別展「石橋宏一郎を巡る画家たち」開催に当たり、同館より古館主幹、下村学芸員、作品調査のため來館(22日)

家でも1枚1枚違う。鷹山さんの作品でもそれぞれ訴える物が違う。鷹山さんは囁くような声で言う、それを聞き分けなければいけない。そういう楽しみがまだまだ無限にあるんですよ。だから、何回足を運んでも違うんですよ。ルーヴルに行っても毎回毎回感動が違うという方がありますが、おそらくそれだと思います。ルーヴルの近くの肉屋の親父でもルノワールの事を批評できる。美術評論だけに頼らないで自分で絵と対面する事だと思います。自分が作品に対して語りかけをすることが大事、作家からの言葉だけでなく自分からの言葉も出してやってください。私はあなたの作品を見てこう感じたけれど、あなたはどうですか？いつもそうしている。絵画だけでなく、アフリカのお金、布に対してもそうです。自分の仕事で抱えているいろいろな悩みがそれらを見ている事でほぐれて行く。発想の展開の刺激剤になる。常に新

慈恵会医科大の教授で

おわりに

免疫学の権威の方と話す機会がありまして、「先生、長生きする秘訣を教えてください。」と言いましたら「私の事はよく軍国少年だと言いますが、私が昔見た標語に“後に続く”とありましたが、自分が出来なかつた事を自分の部下にやらせる。持続という事。皆さんと同じなんです。皆さんが感動した絵の事を人に伝える。伝えられた人を見て、感動してまた次の人に伝える。それが文化という事です。文化は持続なんです。感動した事を、隣りの人隣りの人へと伝えて行く事です。鷹山さんがここに絵を残した事の意味はも凄く大きい。ひとりの作家の歩みがわかるでしょう。初期の頃の版画、とても若々しい作品で、あのエネルギーはどこから来たのか？今の鷹山芸術の鍵をとく作品ではないかと思つています。あの頃の既成の美術に飽き足らないで沸々とした時代、今のうちに奥さんから思い出話を色々聞いて、記録しておいて下さい。会員の皆さんの役割のひとつ、そうして下さい。



佐々木社長。中国の兵馬俑発掘現場でのスナップ。カラーでお見せできないのが残念。

【了】

「スペイン・パリ美術紀行」

二十一年余り前、北川フラム氏がセウラにお出でになった縁でガウディ展が開催され、フラム氏の講演を夢中になって聴いたあの時からサクラタ・ファミリア教会に是非行ってみたいと思つていました。それが現実となり、二十一年一月、憧憬と不安を胸に友の会美術紀行に参加しました。

初めてバスポートを取得しての海外旅行でしたが、全行程をセウラで過ごせたことがとても楽しく、不安が大きな感動となり、憧憬が畏怖の旅となりました。

今回の旅の原点であるサクラタ・ファミリア教会では、ガウディの遺産に深い感慨と大きな感動を覚え、勇気を出して登った尖塔からバルセロナの街並みを一望し、異文化の匂いを肌で感じました。また、セウラ美術館はあまりのすばらしさに父親が絵筆を捨てたと言われる作品《科学と慈愛》の前に、ピカソが天才であることの証を実感しました。ガウディ、ピカソ、ミロ、タリ、エル・グレコ、ゴッダ等のスペインの生んだ世界の巨匠の作品を堪能し、奇怪な岩山モンセラの思い出を胸にパリへ向いました。ルーヴル美術館でラエルメールの作品を見ることが出来たことは大きな収穫でした。オルセー美術館にも行きましたが、大好きなルオーやユトリコの作品がほとんど見られなかったのは本当に残念で、宿題が出来たと思つています。

バスでセウラ川沿いを走っている途中ミラボー橋が見え、「ミラボー橋の下セウラは流れ、われらの恋が流れる...」のメロデーがよぎりました。モンマルトルの丘ではユトリコになつた気分が散策し、その夜は芸術家達の溜まり場だったシャンソン酒場ラパン・アジルでワインを傾けながら本場のシャンソンを聞き、誕生日の忘れ得ぬ思い出が出来ました。いつの日か再びモンマルトルをゆくりと歩いてみたいと思つています。

早いもので友の会美術館の旅も一年を過ぎてしまいました。一緒に結した方々と美術館でお会いする度に、スペイン・パリの興奮を思い起こし、「次は芸術の都イタリアに行きたいわね」と話し合っています。

今回は、限りなく感動にあえた旅でした。企画して下さいました役員の皆様有難うございました。

【戸笛 洋子】



絵／小川敏雄氏。友の会主催絵画教室講師としてもお世話になりました。ほんの僅かな時間でもスケッチされている。そんなスペインでの姿が印象的でした。

編集後記

スペイン帰国直後から、参加者、また、スペインへは都合で行けなかつた方々から、あまり間を空けないうちに是非海外研修を企画してほしい、という要望があらわにこちらからあります。できたらイタリア・アルネサンス、ボンジョルノ・イタリア!!という話が多数あり、季節はいつが良いのか、予算はいくらか、日程はどのくらい長さ?などなど、只今いろいろ資料を集めているところです。総会の時までに、会員の皆様にある程度まとまったプランとしてお見せできるかと思つています。是非ご期待下さい。